

製品名: TIMAP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18945**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	64kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R16B PPP1R16B; ANKRD4; KIAA0823; Protein phosphatase 1 regulatory inhibitor subunit 16B;
別名	Ankyrin repeat domain-containing protein 4; CAAX box protein TIMAP; TGF-beta-inhibited membrane-associated protein; hTIMAP
遺伝子 ID	26051.0
SwissProt ID	Q96T49
免疫原	抗血清はヒト PPP1R16B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 364-413

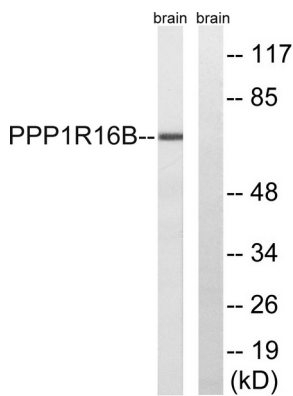
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は膜結合性であり、5つのアンキリンリピート、タンパク質ホスファターゼ1相互作用ドメイン、およびカルボキシ末端 CAAX ボックスドメインを含む。コードされるタンパク質の合成は、トランスフォーミング成長因子 $\beta 1$ によって阻害される。このタンパク質は、CAAX ボックスドメインを介して膜に結合し、タンパク質ホスファターゼ1との相互作用を介してシグナル伝達分子として作用する可能性がある。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成され、それらは同様の処理を受けて成熟タンパク質を生成する可能性がある。[RefSeq 提供、2015年9月]、機能：内皮細胞における TGF- $\beta 1$ シグナル伝達カスケードの下流標的となる可能性がある。、誘導：TGF- $\beta 1$ によって阻害される。、類似性：5つの ANK リピートを含む。、サブユニット：PP1 に結合する。、組織特異性：血管内皮、中枢神経系、肺、脾臓、腎臓、精巣で高発現する。

研究分野

-

画像データ



PPP1R16B 抗体を用いたマウス脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。